

1. 寄り添い学ぶ！子ども傾聴ボランティア育成プログラム

グループ名 NPO法人スマイルラボ

代表者 新屋敷 慶子

① 活動の目的

・価値観の違いを知り、寄り添う心を育てるため、子どもたちを対象とした「傾聴ボランティア」の養成講座を実施。講座後、高齢者の集う場で、お話を聞かせて頂く、「傾聴ボランティア体験」を行うなどの活動により、核家族化・単身世帯化がすすむ地域住民の孤立を防ぎ、子どもと高齢者の双方が見守り合える地域環境づくりに取り組むものである。

② 活動概要

【平成30年6月18日 子どもの傾聴講座開催】

講師に弘前大学大学院助教の田中真氏を招き、青森県立三本木農業高等学校にて子どもの傾聴講座を開催した。生徒32名、教師6名（校長先生含む）の計38名が学んだ。高校生向けの講座ということで、傾聴の基本的技術の講話を分かりやすく教えて頂いた。また、傾聴のみならず、自身の心の持ち方、相手への寄り添いとは？自分の存在価値とは？など思春期の子供たちが、自己肯定感を高く持てるようなお話もして頂いた。話をする側、話を聞く側のロールプレイングも盛り込まれており、実際にどのような聴き方をすると、話し手はどのように感じるか？話を聴いてもらっている感じを受けるのか？共感されているように感じるのか？などを実際に体験してみた。

講座終了後、校長先生から「とっても素晴らしい内容だった。全校生徒、全教員へも是非聞かせたい。」とのお言葉を頂き、先生方の関心も高く、評価も非常に良かった。

～アンケート結果より～

- ・ありのままの自分を受け入れたい
- ・心に寄り添って相手の話を聞くことが大切
- ・自尊心＝ありのままの自分を受け入れること
- ・ゲートキーパー・・・自殺を示すサインに気づき対応、話しかけ話をきくこと。初めて聞いたけど、意味を理解できた。
- ・傾聴→心に寄り添う、契機が良くなるなれば自殺は減る。
- ・自分にとっては、たいしたことなくても、すごくなやんでいる人もいるんだなあと思いました。
- ・日本は自分に価値があると思っている人が1割もいなくてびっくりしました。
- ・青森県の自殺率が全国ワースト3位だということ、その中でも十和田が高いということ。傾聴についても詳しく知ることができました。ぼくも人の心によりそって話を聞きたいです。

【平成 30 年 7 月 31 日 子どもの傾聴ボランティア体験】

上記、子どもの傾聴講座を受講した三本木農業高校の生徒 32 名中、15 名が夏休みを利用し、傾聴ボランティアを実施。高齢者 18 名の計 33 名が参加。

高齢者の悩みやおしゃべりに、心を寄り添い話を聴くボランティア体験を行った。また高校生から、「馬の三本木（十和田市三本木）と言われていた馬の歴史を聞きたい、南部曲り家で馬と暮らしていた頃の話を知りたい」と要望があったため、それらの話も聞く体験を行った。高校生にとって貴重な体験になったと共に、高齢者にとっても非常に楽しく充実した時間となった。核家族化が進んでおり、日常では出会うことがあまりない年齢層の方々と交流を取ることで、互いを知り相手の想い、考えを尊重する機会になった。

～アンケート結果より～

- ・楽しく話ができて良かった。
- ・一緒に考えてくれる優しい方たちとお話しできて本当に良かったです。
- ・全員が意見を言い、楽しかったです。
- ・初めてなので、若い人たちと一緒に良かったです。楽しかったです。
- ・十和田と馬のかかわりを詳しく知れた。
- ・昔は馬の使い方が違っていたことを知ることができた。

③ 決算報告書

収 入	大同生命厚生事業団助成金	100,000円
支 出		
報償費	講師謝礼 (26,937 円)	
	源泉所得税及復興特別所得税 (3,063 円)	30,000円
需用費	ボランティア管理ソフト (3,132 円)	
	バッチ作成費 (11,000 円)	
	パンフレットデザイン料 (15,000 円)	
	パンフレット印刷代 (15,000 円)	
	インクトナー代 (14,962 円)	
	模造紙、付箋、封筒、クリップ等 (8,646 円)	67,740円
役務費	保険料 (27 名分、6,200 円)	6,200円
お茶菓子	講座茶菓子 (4,808 円)	4,808円
	合 計	108,748円



傾聴ボランティア育成講座

真剣に講話を聴く生徒たち。
途中、傾聴の実演としてロールプレイングも行った。



←左
校長先生と応援メッセージの交換をする生徒。
←右
教室に入り切れないほどの先生が見学にいらした。

高齢者の傾聴ボランティア体験



高齢者の傾聴を実際に行っている様子

高齢者と学生が4～6名のグループになり、傾聴を行った。馬の研究を行っている生徒も多くみられ、馬と一緒に暮らしていた時の話や昔話を聴く機会となった。

アンケート結果では、新しい気付きがあった、沢山はなしができて楽しかった・うれしかった、という意見が95%であった。

また、高校生の取り組んでいることを応援したい、という高齢者の声が多く聞かれた。互いに支え合える関係創りを築けた。

